

## ①さいたま市図書館の一年

## 概要と展望（平成24年度から25年度）

さいたま市図書館は、平成18年に策定した「さいたま市立中央図書館整備基本計画」に基づき、中央図書館を中心とする図書館ネットワークを通してサービスを展開してまいりました。

この計画から6年余りが経過し、図書館を取り巻く社会情勢の変化や、市民の多様な要望に応えるため、今後の取組方針を示すものとして、図書館の中・長期的な未来像を示す「さいたま市図書館ビジョン」を平成25年3月に策定しました。図書館ビジョンでは、さいたま市の図書館を「地域の知の拠点」として位置づけ、このビジョンに基づく取組を平成25年度から平成32年度までの8年間実施してまいります。

平成25年1月に、武蔵浦和図書館が開館しました。これにより、図書館数は大阪市と同様に24館となり、政令市の中で第1位になりました。武蔵浦和図書館は南区の拠点図書館として、地域の特色や特性を踏まえた資料収集を行っており、乳幼児から高齢者まで幅広い年代の方々に御利用いただいております。特に、子育て世代が多いという特性を考慮し、子育てに関する図書や児童書の充実を図るとともに、子どもたちが本や読書に親しむ機会を提供するなど、児童向けのサービスにも力を入れてまいります。

また、図書館サービスの向上と効率的な運営を図るため、図書館の規模や地域性、図書館の利用状況などを考慮して、市民の皆様が利用しやすいように、平成24年4月に利用時間と休館日を見直しました。これまでは原則として月曜日が休館日でしたが、休館日を月曜日と火曜日に分散し、年末年始などを除き、一年を通して、市内のいずれかの図書館を利用できるようになりました。

さらに、図書館運営の見直しの一環として、地区図書館の窓口等業務の委託を進めております。平成24年度は、地区図書館5館（南浦和・宮原・馬宮・岩槻東部・与野南）の委託を行いました。図書の貸出や返却、書架整理などの窓口等業務を委託することにより、職員は資料の選定やレファレンス、自主事業の実施など、専門性の高い業務に専念することができ、図書館サービスの更なる向上を図ることができるようになりました。平成25年度につきましても、3館（大宮東・七里・片柳）の委託をしております。